

講義名	業界研究（製造業）		
科目区分	特別研究		
担当教員	持田 信治		
開講期・曜日・時限	後期 月曜日 3時限	授業形態	
	2019年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツマネジメントコース / 2019年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツ健康コース / 2019年度 人間社会学部 観光学科 ホテル・フライダルコース / 2019年度 人間社会学部 観光学科 観光事業コース / 2019年度 人間社会学部 人間社会学科 心理コース / 2019年度 人間社会学部 人間社会学科 社会文化コース /		
履修開始年次	2年生	単位数	2
		備考	

主題と概要			
<p>本講義は製造業に関して理解を深め、ものの価値を創造したり、価値を高めたりする手法を知ることを中心とする。そこで、本講義では以下の観点から企業の方々に話を伺う。</p> <p>(1) ものを創造して価値を生み出す方法について</p> <p>(2) 高度なものをつくる場合の進め方、</p> <p>(3) メカとソフトウェアの組み合わせを持つものづくり方</p> <p>(4) ものを造るのではなく、要求に合うものを採ってくる場合の進め方</p> <p>(5) ものづくりとブランド構築について</p> <p>製造業に興味のある学生の受講を希望する。</p>			
到達目標			
<p>製造業の実際と状況についての理解を深めることを目標とする。具体的には本講義を受講することにより製造業が持つ組織や働きについて理解を深め、製造業に関して正しいイメージを持ち、製造業の活動について説明できるようになることを目標とする。加えて、ものの価値とユーザーの関係を理解することを目標とする。</p>			
提出課題			
<p>講師内容に関するレポートの提出を要求することがある。</p>			

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック			
<p>課題に対する評価や質問に対しては、必要に応じて講義内で説明を行う。</p>			
評価の基準			
<p>授業への参加度と講義内容に関する課題及び試験によって評価を行う。</p> <p>授業参加確認と課題の提示はRESPONにより行う。</p> <p>講義形態がオンラインに移行した場合には授業参加確認と課題の提示はRESPONにより行う。</p> <p>授業への参加度には授業へ参加度（出席・発表）を考慮する。ただし発表と質問については大学の学びには自主性が求められることに鑑み、自主学習が推察される質問や意見については特に評価する。</p>			
履修にあたっての注意・助言他			
<p>本講義は基本的には対面方式にて行う。ただし講師の都合やコロナウイルスの状況により、オンデマンド方式やLIVE方式となることもある。また、持田が担当する回はオンデマンド方式にての配信と課題の提示を行う。</p> <p>対面方式にて講義を行う場合には、外部から講師を招くため、最低限のルールを守ることを求める。遅刻、私語、飲食は厳禁とする。またカバンや飲食物を机の上に並べること及び授業途中での退席はしないこと、最低限のルールができていない学生は、受講を認めない場合もある。また、質問を行う等の積極的な参加を期待する。</p>			

教科書	
.使用しない。	

プリント資料及び参考文献	
必要に応じて、プリント又は教材を配布する。	

授業計画	
以下の講義を予定している。しかし外部講師の都合により、スケジュールは変更される可能性がある。	
第1回	イントロダクション / 講義 持田 信治
第2回	三菱日立パワーシステムズ環境ソリューション(株) 常務取締役 荒井利明氏
第3回	山陽特殊製鋼株式会社 フェロー 柳谷彰彦氏
第4回	途中まとの講義 持田 信治
第5回	ダイキン工業株式会社 顧問 岡田慎也氏
第6回	龍野コルク工業株式会社 代表取締役 片岡孝次氏
第7回	三菱造船株式会社 マリンエンジニアリングセンター造船設計部 技監・主幹技師 厩田徹氏
第8回	途中まとの講義 途中まとの講義 持田 信治
第9回	海洋研究開発機構 海洋工学センター海洋基幹技術研究部 部長 吉田弘氏
第10回	株式会社テックソリューション 取締役事業部長 坂口憲一氏
第11回	東洋紡株式会社 技術革新統括部 主幹 深見拓也氏
第12回	途中まとの講義 途中まとの講義 持田 信治
第13回	いすゞ自動車株式会社 理事 高原正雄氏
第14回	講義 外部講師
第15回	まどめ講義 持田 信治

授業形態（アクティブ・ラーニング）	
ア	: PBL（課題解決型学習）
イ	: 反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ	: ディスカッション、ディベート
エ	: グループワーク
オ	: プレゼンテーション
カ	: 実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間	
事前課題が与えられた場合又は、資料が提示された場合には、必ず資料に目を通して講義に参加すること。	

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述	
レスポンスを利用して質問を受け付け、講師に回答を依頼して、講義中に回答を紹介することがある。	

実務経験の有無及び活用	
「実務経験あり」過去のプロジェクトマネージャとしての実務経験に基づき、製品戦略策定に向けたデータ分析と経営戦略のポイントを解説する。	

備考	
問題意識を持って講義に参加すること。	